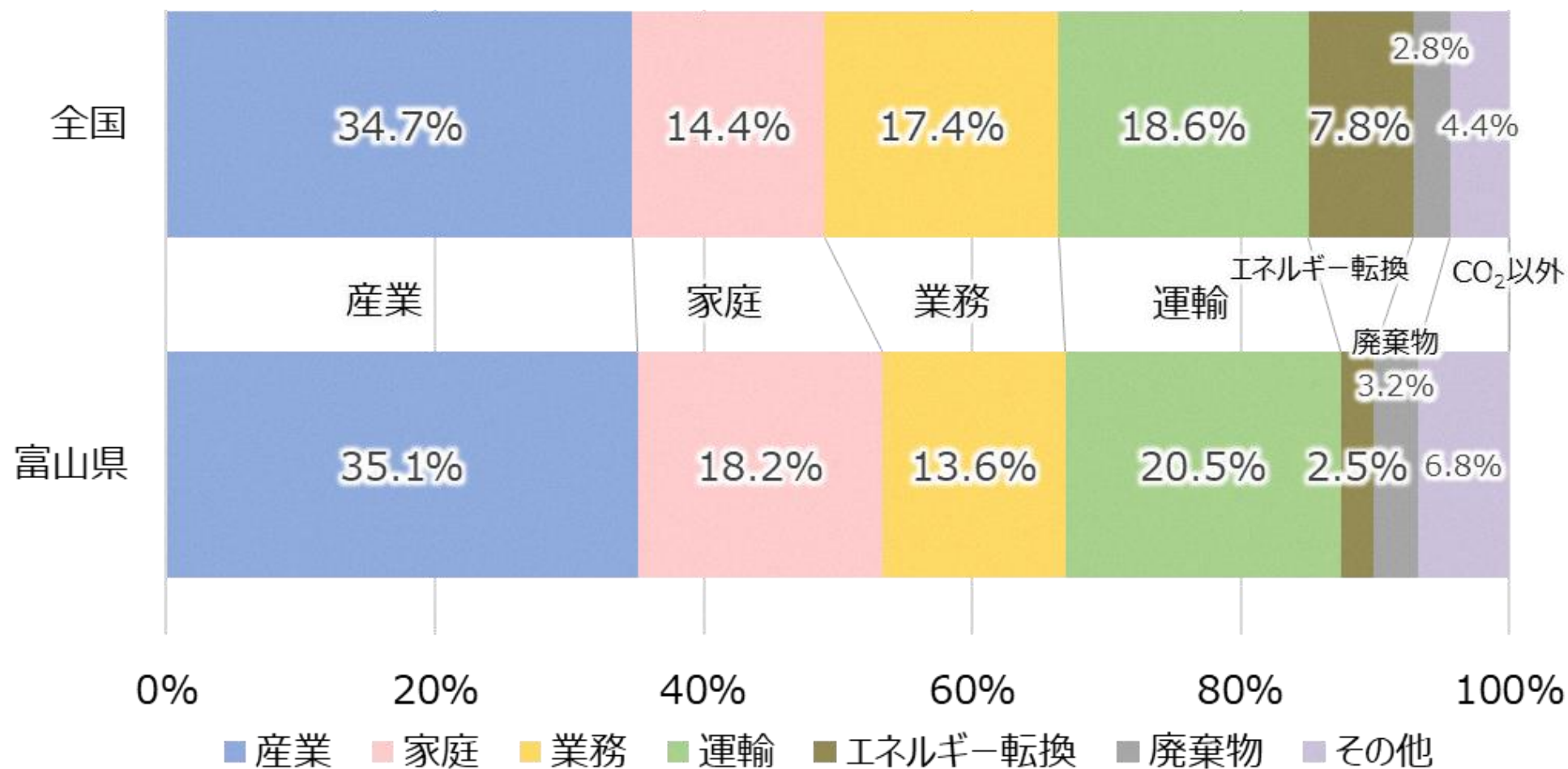


## 7 温室効果ガス総排出量（全国との比較）

- 富山県と全国における2019年度の温室効果ガス排出量の内訳を比較すると、富山県は全国よりも産業部門や家庭部門、運輸部門の占める割合が大きく、業務部門やエネルギー転換部門の占める割合は小さくなっている。



第4章 課題

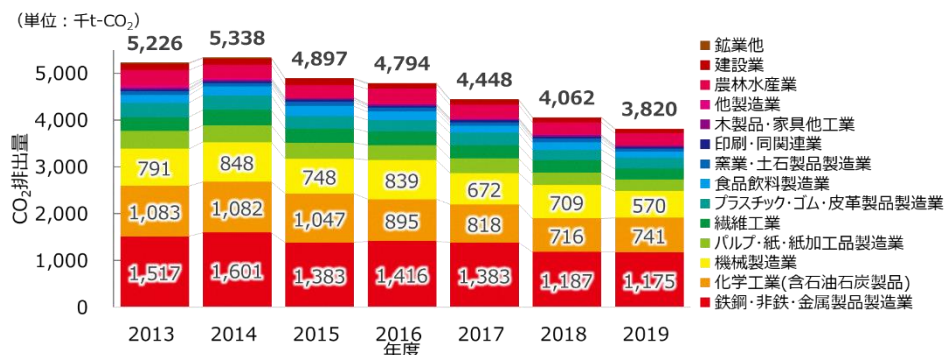
1 産業部門

【現状】

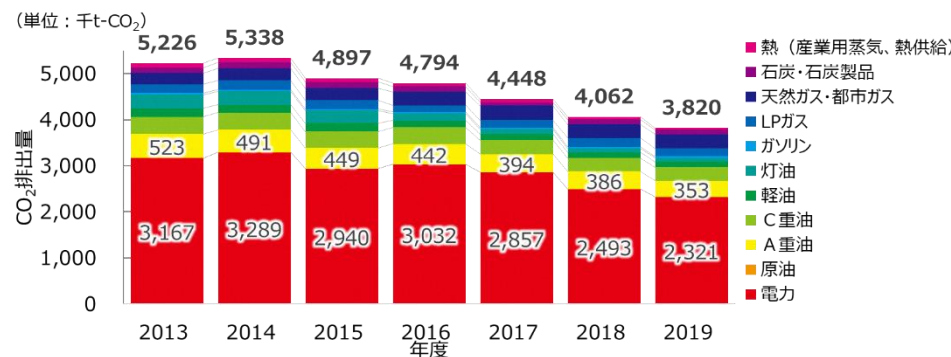
- ・ CO<sub>2</sub>排出量は近年減少傾向にあり、2019年度は3,820千t-CO<sub>2</sub>で2013年度比で26.9%減少している。
- ・ 業種別に見ると、約91%を製造業が占め、鉄鋼・非鉄・金属製品製造業、化学工業、機械製造業の順に多い。
- ・ 金属溶解炉など1,000℃を超える高温から空調など比較的低温まで、幅広い温度帯の熱の利用に伴うCO<sub>2</sub>排出がある。
- ・ 重油等のCO<sub>2</sub>排出係数の大きな燃料も使用されている。
- ・ グローバル企業を中心に脱炭素経営の実践が世界の潮流となっており、サプライチェーンの取引先や投融資先に排出量削減を求める動きが拡大している。

【課題】

- ・ 全ての事業者が脱炭素化と競争力の維持・強化を図る必要があるものの、特に中小企業において「脱炭素＝コスト増」の意識が先行していると言われている。
- ・ 脱炭素に至るまでの道筋は一つではなく、事業者ごとにエネルギー消費や設備の状況に応じて、経済性や社会実装の進捗を踏まえ、適時適切な手段を選択・導入する必要がある。
- ・ 事業者からは、初期投資の大きさ、排出削減や新技術に関する人材・知識不足などの課題が挙げられており、金融機関や関係団体等との連携により、こうした事業者の課題解決を支援し、脱炭素化を促進する必要がある。



富山県の産業部門の業種別CO<sub>2</sub>排出量の推移



富山県の産業部門の燃料別CO<sub>2</sub>排出量の推移